

小城地区

18 天山酒造

【小城市小城町岩蔵1520】

小城駅より車で15分
祇園川沿いに江里山方面へ
TEL 0952-73-3141(天山酒造)



天山酒造は、天山山系に源を発する祇園川の名水を利用して、文久元年(1861)頃から水車で精米・製粉及び製麺業を始め、その後明治8年(1875)に酒造業を創業、現在もこの地で酒造りを営んでいる。明治蔵に大正蔵が増設され、さらに、大正蔵と平行して昭和蔵が建てられ、非常に大規模な酒蔵となった。天山山系を背景とした大きな白壁漆喰の酒蔵群の景観は特徴的で、見る人を圧倒させる。

19 江里山の棚田

【小城市小城町岩蔵】

小城駅より北へ車で20分



江里山地区は天山山系南側の中腹標高250mに位置し、天文年間(1532～1554)の始め頃、村が形成されたと伝えられている。地区内の棚田は、約600枚を数え、四季折々に変わりゆく棚田の景色は、年間を通じていろいろな表情を見せている。特に、集落一斉の草刈りにより維持されてきた秋に赤い彼岸花がいっせいに咲く様は見事で、この地区の大きな魅力となっている。

棚田に黄色く実る稲穂と法面や畦畔に咲きほこる彼岸花、集落が一体となった景観は、「全国農村景観百選」、「日本の棚田百選」にも選ばれ、日本農村風景の代表的なひとつとなっている。

20 村岡総本舗小城本店・村岡総本舗羊羹資料館

【小城市小城町861】

TEL 0120-35-8057(村岡総本舗)
年中無休

小城地方は羊羹の名産地で、羊羹資料館は昭和16年に砂糖の貯蔵庫として建築された。現在は改装され、羊羹づくりの道具等が展示されている。木造寄棟屋根の和風建築であるが、ファサード(正面)は煉瓦とタイルによる洋風の意匠となっており、その特徴的な外観はひろく親しまれている。昭和36年建築の本店は、当時としては珍しい有田焼の磁器のタイルが使用されている。

21 日本福音ルーテル小城教会

【小城市小城町170-8】

小城駅より徒歩7分
幼稚園併設
内部見学は要連絡
TEL 0952-72-3221
(小城幼稚園)



日本福音ルーテル小城教会は、昭和13年に建築された切妻屋根の小さな木造教会で、教会堂東面にホール及び牧師館が雁行型状に接続し、一体的な構成となっている。教会堂は、背面の妻壁に祭壇が円形状に張り出す独特の外観を呈している。窓は全て菱格子棧で、黄色のダイヤガラスが入っている。祭壇下は半円形の地下室で、納骨堂に利用しており、他所では類例を見ない。

22 小柳酒造

【小城市小城町903-1】

小城駅より北へ車で5分
TEL 0952-73-2003(小柳酒造)

この地は江戸時代から天山山系の伏流水を利用した酒造り等が盛んで、醸造業を営む町屋が建ち並んでいた。小柳酒造は文化年間(1804～1818)の創業とされ、明治から昭和にかけての酒造工程の一連の建物群が現存する。主屋は江戸後期(推定)の良質な町屋建築で、煉瓦造りの煙突は造り酒屋を知らしめるシンボルとなっている。また、明治時代には紙問屋も営み、中国大陸まで小城和紙を販売していた。

23 深川家住宅

【小城市小城町877-2】

佐賀県CSO推進機構がブックカフェ・ギャラリー等を企画運営
TEL 0952-73-1166 月曜定休

深川家は、旧小城城下と鎮守の祇園神社を結ぶ参道沿いに位置する旧造り酒屋の町家である。裏の土蔵で酒造りが行われ、主屋の一角を占めていた店頭で、酒の小売りが行われていた。主屋の建築は江戸時代末期と推定される。外観は真壁で、二階両端の戸袋を白漆喰で塗り込めている。一階出入口の大戸が失われているものの、縦格子が三間にわたって付き、町家らしい外観を呈している。

神埼・鳥栖地区

24 仁比山神社の仁王門

【神崎市神埼町大字的1692-2】

神埼駅より北へ車で5分
仁比山神社参道入口 見学自由

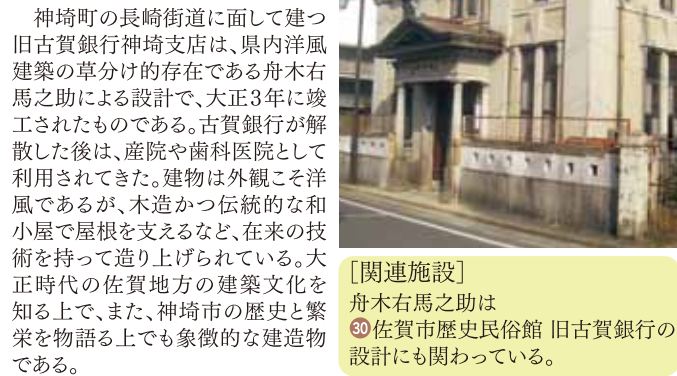


仁王門は、門に向かって右に阿形、左に吽形の仁王像が祀られている。仁比山神社参道の入口に位置しており、本来この地にあった仁比山護国寺の山門であったと考えられている。仁比山護国寺は、寺院由緒書きによると、天平元年(729)聖武天皇の勅願によって、僧行基が草創したといわれている。仁比山神社は山の神・農業の神として祭られ、12年に一度申年に大祭「御田舞」が奉納される。

26 旧古賀銀行神埼支店

【神崎市神埼町神埼3丁目438】

神埼駅より徒歩15分
現在改装中につき内部は見学不可



【関連施設】
舟木右馬之助は
30 佐賀市歴史民俗館 旧古賀銀行の設計にも関わっている。



27 下村湖人生家

【神崎市千代田町崎村字一本松895-1】

神埼駅より車で15分、県道211号沿い
TEL 0952-44-5167
月曜休館

教育者である下村湖人が幼少期等に10年程暮らした家である。蓮池鍋島藩の勘定方としていた湖人の祖父が、明治初期に藩邸にあった建物を譲り受け、現在地に移設、増築したと伝えられている。自伝的小説である「次郎物語」には、現在の間取りや庭の様子が描写され、湖人の幼少期の暮らしぶりがうかがえる。下村湖人の業績をたたえ、また精神文化の拠点となっている。

28 古木の杜 河内大山祇神社

【鳥栖市河内町本村・谷口】

鳥栖市街より河内ダム方面へ車で30分



江戸時代後半の社殿を残す境内には、イチヨウ・イヌマキ・モミジなど「佐賀の名木・古木」選定の九本を含む巨木が社殿を覆うように群生している。周囲の農村と一体となった景観は、四季折々変化し、特に秋には古木の杜が色鮮やかに染まる。この地域一体はかつて対馬藩田代領で、神社に隣接する福岡県那珂川町に通じる峠は「塩貫い峠」とも呼ばれ、玄界灘沿岸地域との交易ルートでもあった。山の神、海の神でもある大山祇神社がここに鎮座することは、海とのかかわりが強い対馬本藩との深いつながりを物語る。境内の現人社には、祀石に藁苞(ワラヅト)で覆いがされており、この地域の民俗として独特の佇まいを見せている。

紅葉の時期には地元有志を中心としてライトアップ等のイベントを行い、地域の盛り上げを図っている。

25 ひのはしら一里塚

【神崎市神埼町田道ヶ里1080】

神埼駅より徒歩20分
神埼1丁目交差点より東へ入る
駐車場有り 見学自由

筑前・筑後・肥前境の三国峠を基点に一里(約4km)ごとに、江戸に向かって左側に設置されたもののひとつである。長崎街道で唯一築山が現存している一里塚である。ひのはしら(緋=赤色)とは、往時ここに櫛田宮の赤木の鳥居がそびえていたことによる。頂上のいぼ地蔵は、立願にはいり豆をこのみ、また、脊振山と背比べのため土を高めることを喜ぶとされる。

